

軍事工業特集：多くの中国軍事企業がロシアに進出

漢和防務評論 20181210(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

ロシアに対する西側の武器禁輸が中国製品のロシア進出を加速しています。
中国は、8月にモスクワで開催された国際軍事技術論壇「軍隊-2018」に、大量の軍事産業の専門家を派遣するとともに、ロシアが必要とするであろう軍需品を展示しました。
またロシアの最新軍事技術、兵器を欲しがるパキスタン、インド、北朝鮮も積極的に参加し、必要な情報を仕入れ、自国の軍事技術開発の参考にしています。

KDR 編集部モスクワ

西側国家がロシアへの武器禁輸を強めてから、多くの中国軍事企業がロシアに進出しつつある。彼らの一部は国営で、一部は私営である。この種の状況は、ロシアの軍事工業界が逐次中国製品に依存するようになることを意味する。最も顕著なものは、艦船用ディーゼルエンジンや半導体チップ、各種軍用電池である。特に航空工業が使用する戦闘機用電池等である。後者はロシア市場を切り開こうと試みている。

消息筋は、次のように述べた：ロシアの軍用航空機電池は中国製品に依存してから久しい。以前中国製電池はドイツを通じてロシアに輸出された。最近2年間、ドイツが購入する中国製軍用電池が逐次減少している。中国の会社はドイツからロシアに中国製電池が輸出されていたことにやっと気付いたのである。現在、同会社は自らロシアの航空軍用電池市場を開拓しはじめた。無人機を含め、J-10、J-20は、同会社製の軍用電池を使用している。

中国は、一途にロシアへの無人機輸出を希望しているが、国防工業部門の消息筋は、今回KDRに対し明確に述べた：ロシアは、中国製無人機を購入しようとは思わない、と。

またロシアは、ロシアの友好国家、或いはロシアの影響を受ける旧ソ連国家が中国製武器を購入するのを望んでいない。例えば、カザフスタン、アゼルバイジャン等である。そして特に無人機及びロケット砲等を。したがって中国は、現在白ロシアを通じてこれらの国家に中国製兵器を輸出している。白ロシアで生産されたA-300ロケット砲も含まれる。

中国製半導体チップの輸出はすでに開始された。しかしロシアは中国製品の品質については相当注意しており、各種半導体チップについては極力自力開発しようとしている。今回の国際軍事技術論壇「軍隊-2018」(2018年8月、モスクワで開催)で、少なくとも1つの中国の製造会社が彼らの技術を展示していた。これは民間会社である。国営のCETC社は、GaAs(ガリウムヒ素)、GaN(窒

化ガリウム)、MMIC (モノシリック・マイクロ波集積回路)、MCM (マルチチップ・モジュール)、TR (サーマル・リレー) 等のモジュールを含む各種の半導体チップを大量に展示していた。また銀河シリーズの各種操作系統もあった。これらの製品の外形、寸法、モジュール化の程度から見ると、中国の AESA レーダー技術は大きく進歩しているようだ。ロシアの一部のフェーズド・アレイ・レーダーが中国製の T/R モジュールを使用していることは、KDR がすでに報道した。現状から見ると、中国の会社はすでにロシアの市場に進出しつつある。

しかしロシアの艦載 AESA レーダーを設計、生産した設計師は KDR に次のように述べた：彼らの製品は全てロシアでも生産できるが費用が高くなる。ロシアは中国製のハイテク製品を使用することについては相当慎重である、と。

またセンサー、各種スイッチ、接続装置等は、以前はウクライナで生産されていた。中国の滬東重機有限公司は、ロシア向けに小型艦船に搭載するディーゼルエンジンを販売した。しかしロシア艦船工業界の消息筋は：中国製のディーゼルエンジンは、通常、最初の製品の品質は良いが、その後提供される製品の品質は問題が多い、と述べた。滬東重機有限公司は、過去に主としてドイツの MTU ディーゼルエンジンをライセンス生産していた。今回ロシアに販売されたのは、中国が自力設計した MV-350 型ディーゼルエンジンである。このほか発電機セットも販売した。

ロシア海軍で使用する中国製ディーゼルエンジンの問題点について、ロシア軍事工業界の消息筋は KDR に対し次のように述べた：極めて失望した、と。彼はまた次のように述べた：ドイツからの武器禁輸は確かに一部に影響が出ている。ロシアのディーゼルエンジン市場は、元来 MTU 製品が席卷していた。武器禁輸後、中国から買うようになった、と。ロシア政府は”ウクライナ製品の全面転換”計画を制定し、2020 年までに、元来ウクライナで生産されていた軍事装備品の全てをロシア国内で生産するよう求めている。各種エンジンは重点品目である。しかし時間と投資が必要である。

中国の軍事工業製品は品質はどうか？対外交流や対外協力の中で、それははっきり分かる。ロシア海軍の 22460 パトロール艦、21631 小型護衛艦、21980 小型快速艇は中国製のディーゼルエンジンを使用している。22460 は、連邦安全局 (元の KGB 国境警備部隊) に属している。すべてこれらのディーゼルエンジンは中国の河柴公司 (河南ディーゼルエンジン工場) が提供したものである。全部で 2 つのタイプがあり、22460 が使用する 622V20、及び 20980 が使用する 620V12 である。このエンジンは最初の海上試験でエンジンが停止した。

このエンジンのために、ロシア海軍への艦船の引き渡しが影響を受けた。幸いにも、中国製品は短期間で取り替える予定であった。ロシアはすでに新たな供給先を見つけ出した。ここから先は、説明を受けることはできなかった。

ディーゼルエンジンの問題は、ロシアにとって影響が巨大である。ロシアは、やむを得ない場合を除き、できるだけ中国製軍用部品の購入を避けようとしている。

成都の電子部品会社は、ロシアにマイクロ波機器、無線電ネットワーク技術、敵味方識別装置を販売した。

北方工業公司、航天科工、航天科技、中航技、兩大船舶公司、電子工業公司等々

を含む、主要な中国の軍事装備生産会社は、「軍隊-2018」論壇に参加した。CH-4 無人機模型等も展示した。

今回の軍事技術論壇「軍隊-2018」の極めて明確な特徴は、パキスタン人の大量参加であり、彼らは随所に見られた。パキスタンの軍備製造工場、戦車工場もに参加した。インドの参加規模は更に大きかった。パキスタンとロシアの政治、軍事の緊密な関係は深まりつつある。

ほんの 1 年前に比べても、中国のロシア市場への浸透度は急激に強まりつつある。今回の「軍隊-2018」論壇では、中国は歌や映画でも中国を宣伝した。大量の中国軍事企業の専門家が論壇に参加し、最新のロシア製兵器を重点的に観察した。北朝鮮人もまた最新のロシア製兵器を研究していた。今回北朝鮮人への印象が大きく変化した。2 名の北朝鮮人は徽章などは付けず、ポロシャツなどを着ていた。過去には見られなかった光景である。

以上